

洋書輸入協会会報

VOL. 9

NO. 7

(通巻 99 号) 昭和 50 年 7 月

理 事 会 報 告

6 月 10 日 (火)

- (一) 5 月収支計算・予算対比表の検討。
- (二) 前回の通関委員会主催研修会に欠席した会員に対して
協会事務所において改めて研修会を開催する旨の通関委
員会からの提案を承認。

- (三) Richrd Abel社の第一回債権者会議が 6 月 13 日に開催
される旨の情報が披露された(資産 60 万ドル、その 1/2 が
担保にはいつている)。

- (四) 6 月 27、28 日の東西合同懇親旅行には 62 社 77 名の参
加がある旨文化厚生委員会から報告あり。

- (五) その他。

6 月 26 日 (木)

- (一) 外国政府出版物の流通問題について。

- (二) 6 月 16 日 (月) 日本出版クラブにおいて再度の通関研

修会をひらいた旨の報告あり。

(研修参加者 23 社 27 名)。

- (三) 内外の情報交換。

- (四) その他。

通関委員会報告

去る 5 月 22 日に開催された Book 通関実務者研修会に出
席できなかった会員の方を対象に、6 月 16 日午後 2 時より
日本出版クラブにて再度、研修会が開かれました。23 社 27
名の方が出席され、これで会員全員がもれなく研修を受け
られましたので、委員会としては今後の適切な通関手続が
行われるよう期待しております。

理事会報告…………… 1	Book Review No. 27…………… 5	会員の横顔 幸洋商事・廣井秀夫… 7
通関委員会報告…………… 1	外国出版社の紹介 No. 39 …… 6	ニュース…………… 8
東西合同懇親旅行会に参加して… 2	(英国土木学会)	通関統計…………… 8
第 5 回東西合同ゴルフコンペ… 3	会員紹介 (第一出版貿易㈱) …… 6	事務所移転ご案内…………… 8
ペンギンとその機構…………… 4	海外ニュース…………… 7	(白鷗洋書㈱)
		総代理店ご案内…………… 8

東西合同懇親会旅行に参加して

タ ト ル 渡 辺

今年の旅行先飛騨高山へは私自身ぜひ一度ゆきたいと思っていたが機会がなく、幸い今回は関西支部の方々のお骨折りにより実現した。

27日朝、書物等により見聞した飛騨地方の風景を頭に描きながら出発した。

心配された天気も出発時は曇り空であったのが、名古屋駅についた時は夏を思わせる暑い日射にかわっていた。

ここで関西支部の会員の方々と合流し「のりくら4号」で高山へ向う。

美しい日本ライン、深い緑に気持ちを和らげ、冷たいビールで喉を潤しているうちに高山着となる。ここよりバスで飛騨の里に向う。

約3万坪の地に飛騨の歴史を物語る特徴ある建物、いや我々の先祖が喜びや悲しみとともに生活を支えてきた英知の結晶が眼前にひらかれた。自然との調和を考えた美しい山合いの里に心洗われる思いがした。

今夜の宿「高山グリーンホテル」での夕食はUSエシアティク岡崎幹事の司会により始められた。洋販渡辺社長により東京会員の紹介、つづいて緑書房丹羽社長により関西会員の紹介があった。高山民謡保存会による歌の披露、きれい所によるサービスで宴もたけなわとなる頃、幹事の努力により「のど自慢大会」がもよおされた。参加者に参加賞が配られさいごに、のど自慢特別賞が全員一致で福本書院福本さんに手渡され宴を終えた。

翌28日小雨ふる中10数名の方はゴルフへ、他はバスで御衣ダム、白川郷へ向う。新米ガイドの説明によれば、このダムによる発電設備は全て山中（トンネル）に建設されて

いる由。ダム建設当時に御衣銀座と栄えた通りも今はすっかりさびれ廃虚化している。

白川村荻町合掌造り明善寺に着いた時は雨も上がった。二百年前に建てられたこの寺はほとんど手を加えることなく現在も使用されている。合掌造り五階建の庫裡は釘、カスガイ等金具を一切使用せず、クサビ、ネソ（粘気の灌木）、ワラナワでしめくくってある。

茅葺の屋根は雪をおとすために、60度の勾配になっている。釘等の金具を使用すると年貢が加算されるので使用されない。合掌造りの1階は住居に、2、3、4階は養蚕に使用され、五階は使わなかった。各階の床はスノコを敷き並べてある。これは1階の炉火の熱と煙で部屋の保温をは



白川郷旧遠山家住宅前にて
(国指定重要文化財)

かり、かつ良材の樺や桧の柱は立ちこめた煤煙で漆塗りのような光沢を放ち、屋根裏のワラナワや茅などに付着して強度を増し、防虫剤の役にもたった。おばさんの親切な説明により見学時間をオーバーしてバスに駆け戻る。荻町で1時間の食事時間をとる。庄川に糸を垂れる者、白川八幡宮に足を運ぶ者など思いおもいにすごした。高山駅へ向う途中、白川郷の代表的な合掌造りである遠山家に寄る。昭和43年まで住宅として使用していた。1階だけでも約百坪の広さである。理由は、農業や交通の動力源である牛馬を同じ屋根の下で飼育した、大家族である。結婚は長男長女しか認めない。山間部で耕地少なく自給自足の生活なので

一切分家は出来ない。次男次女以下は家長を助けて生涯を終わらなければならなかった。もし長女以外に子供が生まれなくても結婚は認められず、母親の実家の一員として育てられた。山深かく気候にも恵まれない厳しい自然条件がこのような生活様態を生んだものと思われる。美しい自然とはうらはらにつらかったであろう次男次女の往時の生活がふつとしのばれる一時でもあった。

さいごにこの旅行を計画しお世話いただいた関西支部の幹事さんに深くお礼を申し上げます。本当にご苦労さまでした。

第5回 東西合同ゴルフコンペ

恒例の“東西対抗杯”争奪の合同ゴルフコンペも回を重ねて第5回目を迎え、高山より北へ約1時間のリゾートコース“飛騨数河高原CC”で、東より11名西より4名集いて技を競う。

前日の好天気が嘘のような朝からの雨模様で、最悪のコンディションのなかを元気よくフロントナインよりスタート。久方ぶりの東西会員の交流なので、和気あいあいのプレイ風景。バックナインに入るころより、ようやく晴れ間が見えてきて高原独特のフェアウェイの白樺がひととき鮮やかに目にしみる。この日悪条件にも拘らず、雨男大野氏（丸善）のダントツのベスグロ優勝、対抗戦は東軍の連勝で通算2勝2負1分のタイとなった。

団体戦 東軍優勝

東軍 274 ストローク（大野、佐子、村山）

西軍 294 “ （松永、河崎、上田）

個人戦

優勝 大野（丸 善・東） NET 69 （HCP 14）

2位 佐子（カイガイ・東） “ 78 （“ 13）

3位 河崎（三 洋・西） “ 78 （“ 18）

5位 村山（ゲ ー テ・東） “ 79 （“ 21）

10位 佐々木（第一出版・東） “ 87 （“ 25）

BB 渦原（至成堂・西） “ 94 （“ 30）

ベストグロス 大野（丸善・東）

ドライビング 上田（カイガイ・西）

ニアピン 山川（USACO・東）

なお、パーティーの席上、9月の適当な日に、中京の春日井あたりで、東西の決戦を行っては、の話が持ち上り、夫々検討を約して閉会した。 関西支部 松永（北尾）記

<ペンギンとその機構>



野村 知 成

Penguinはわが国で一番親しまれている洋書である。洋書店へ来るお客の中には、Penguinは英国で出版されている本だという事を知らない人も居るぐらいである。日本のどこかで出版されているぐらいに思っているようである。これ程までに日本で親しまれているPenguinが、どの様に作られ、どの様に世界中に配布されているか、中々興味のある問題と思われる。英国の玄関口であるロンドン空港の近く Harmonthworth にある Penguin 社へは、空港に近いせいもあるのか、日本の見学者があとをたたないという。筆者も先年、同業数社のメンバーの一人として、見学の機会をもつ事が出来た。この稿は、その時の見聞と、Penguin社からもらった資料をもとに、何回かに分けて、Penguinについて出来るだけ正確に紹介してみたいと思う。

(1) Penguin Books の歴史

1935年、最初の Penguin Books 10点が出版された。その10点のPenguinはBodley Head社の若きManaging DirectorであったALLEN LANEの、数カ月に及ぶ苦勞の結実であった。彼Allen Laneは、巨大な分量の良書を、並はずれた安い値段で、いかに出版し販売していくかという彼のIdeaを数カ月にわたってねりにねった。出版人や流通業者と何回も議論した。彼が相談をした人達の意見はその計画は、たぶん成功しないだろうという点で、ほとんど全員一致していた。しかしAllen Laneは初志をまげずついに決意した。かくして計画した本の版權は取得され、着々と印刷に廻わされた。

最初に出版した10点は以下の通りで、それ等は皆6ペンスと値づけされた。

<最初に出版された10タイトル>

- ◎ André Maurois: Ariel.
- ◎ Ernest Hemingway: Farewell to Arms
- ◎ Eric Linklater: Poet's Pub.
- ◎ Susan Ertz: Madame Claire

- ◎ Dorothy L. Sayers: Unpleasantness at Bellona Club.
- ◎ Agatha Christie: Murder on the Links
- ◎ Bevertey Nichols: Twenty-Five
- ◎ E. H. Young: William
- ◎ Mary Webb: Gone to Earth
- ◎ Compton Mackenzie: Carnival

最初の20タイトルまでは、Allen LaneがBodley Head社のDirectorであった事から、同社のJohn Laneによって配本業務がなされたものの、これはBodley Headの仕事として行われたものではなかった。1936年の1月には、新会社Penguin Book Ltd.が基本金100ポンドで設立される運びとなる。配本業務は新会社に移され、倉庫兼作業場として、ロンドンのEuston RoadにあるHoly Trinity教会の地下室を借り受ける事となった。新会社設立から1年と6カ月は、ここで業務を行い、1937年の暮にHarmonthworthへ移転する事となった。つまり今現在の社屋のあるロンドン空港のそばである。

Harmonthworthへ移転した頃には、Penguinの発行点数は、優に100タイトルをすでにこえていた。そして何でもよいものならやっつけようという方針は、次々と成功をうみ出す結果となった。姉妹シリーズのPelicans（これははっきりと啓蒙的傾向の内容を意図したもののだが）もスタートする事になり、最初のタイトルはBernard Shawの“Intelligent Woman's Guide to Socialism, Capitalism, Sovietism and Fascism”であった。これは、原典のReprintによる出版ではないOriginal出版の最初であった。その後時代が進んで、国際状況が切迫した時出したのがPenguin Specialであるが、（この最初のタイトルはGenevieve Tabouisの“Blackmail or War?”）これ等の成功によってAllen LaneはOriginal Titleでも原典からのStraight Reprint同様に廉価で出版し得るという確固たる自信をもつ様になった。 —以下次回へ—

Mysteries from Forgotten Worlds

by Charles Berlitz

(Doubleday, 1972 刊)

1972年に出版された本を今になってとり上げたのは他でもない、現在同じ著者 Charles Berlitz の書いた "The Bermuda Triangle" (Doubleday, 1974 年刊) がアメリカで現在 Non-Fiction の Best Seller になっており、この邦訳が徳間書店から "謎のパミューダ海域" なるタイトルで最近出版され、大々的に宣伝されているのを知ったからである。広告によると "謎のパミューダ海域" は、「一連の UFO、未来もののすべてに例を見ない迫真のドキュメンタリー。怪奇と神秘に満ちた "魔の三角地帯" 航空機や船がなんの前ぶれもなく次々と消えて了う……しかもなんの痕跡も残さずに！原因は果して UFO か、地球の磁力の歪みか、海底人類か、アトランティス文明の残したエネルギーか!?」とうたっている。Berlitz のこの種の一連のドキュメンタリーは Pseudo-Science に属するものだと言う学者もあろうが、一般の人の読み物としては空想を刺激して面白い。標題の本も勿論この分野に属している。実際この様な分野の Non-Fiction は時に Bestseller になる。10 年ばかり前になろうか "Edgar Cayce: The Sleeping Prophet" (有名な予言者 Edgar Cayce のことを書いた Mysticism 及至 Occult の分野に入る本) が Non-Fiction の Bestseller になり、また二・三年前には Bantam 社の Paperback で "Chariots of the Gods?" (いろいろな未解決の遺跡、考古学的発見を基にし、地球に文明を最初にもたらしたのは一万数千年前地

球を訪れた宇宙人ではないかと Speculate した著書) がアメリカばかりか各国で Bestseller になったし、同じ Bantam で次々と出版された "Gods from Outer Space" とか "We are not the First" なる本なども良く売れたものである。

さてこんなことで大部前面白く読んだ標題の本をとり上げたわけである。Charles Berlitz は著名な Berlitz Language School の創始者の孫に当り、本人自身も 30 あまりの言語に通じた Linguist である。エジプト象形文字の研究から考古学に興味を持ち言語の知識が多くの古文書を読む助けとなったと云う。この本は多くの最近に至る迄の考古学的発見を基とし、南北アメリカ大陸には実際にいつ頃文明が発生したのかを探っている。著者はコロンブスのアメリカ発見の何千年も前にアメリカ大陸には高度の文明があり、ヨーロッパや極東からの人々によってこの文明を磨き上げたのだ、アトランティスは現在のアゾレス及びカナリヤ諸島付近にあったのだ、などの説を Suggest している。この種の本には極めて Farfetched と思える説をとなえる作家もあるが Berlitz はいろいろな事実をあげて人類の過去に疑問を投げかけ、仮説を提示しているだけである。この本にくらべると "The Bermuda Triangle" の方がより仮説に対し Suggestive であり、またそのために面白くなっているのかも知れない。

いわゆる The Unexplained の分野の本に興味を持つ人にとっては、この本はいろいろな夢を与えて呉れるものとしてこの欄にとり上げてみた。

The Institution of Civil Engineers

(英国土木学会)

ロンドンには、テムズ河にかかる有名な Westminster Bridge の延長上にある Great George St. ここは、内務省、外務省、大蔵省など官庁街が続き、いかにも英国風の重厚な感じのビルが居並ぶところ、その一角に古い歴史を語りかけるような ICE の本部がある。

1818年に設立され、やがて 160 周年を迎えようとしているこの学会は、イギリスが世界にその栄光の歴史と高い権威を誇る学術組織であるばかりでなく、技術論文や工学図書の出版活動の面においても、立派な業績をあげている団体である。

現在の会員は約 50,000 人、内訳は Fellows 11%, Members 50%, Ass. Members 20%, Student Members 19% という構成。出版活動は、工木工学の専門分野に限らず、広く周辺のテクノロジーについての

A 4 サイズのデータブック類はいま世界中に行きわたっている。

年間開催される国内・国際会議が合わせて約 200 回あり、これらの Proceedings (1) 設計と施工、(2) 研究と理論の 2 部門にわけて年四回発行される——それらがこの学会の出版事業の中心になっている。

ほかに週刊で、“New Civil Engineer-Magazine of the I. C. E” と quarterly で “ICE Abstracts” がある。

後者は、未だ生まれて間もないジャーナルであるが、全ヨーロッパとアメリカ、カナダの 90 種の専門誌の年間 2,200 件に及ぶ論文を抄録 (A 5 判、約 200 pp) し刊行される。

専門の業務では、例えば The Ass. of Consulting Engineers とか、The Council of Engineering Institutions など英国内の多くの学協会と提携関係にあるが、出版企画については英国原子力エネルギー協会とタイアップして広範な活動を続けており、内外の科学技術者から高く評価されている。

会 員 紹 介

(準 会 員)

第一出版貿易株式会社

代表者 佐々木 大刀夫

〒160 東京都新宿区新宿 1 丁目 24 番 2 号

電話 (354) 4928・(356) 1931

第一出版貿易株式会社は、1971年 5 月 1 日、代表取締役社長佐々木大刀夫氏により、同氏の私宅、新宿区下落合 4-7-26 に於て、創立されたが、翌 1972 年 6 月に上記現在の住所に移転して今日に至っている。

第一出版貿易は、電気、電子工学、電力、造船、船舶機関関係等を中心に広く理工系に主力を置いている。

社長の佐々木氏は、大学卒業と同時に日本電気に入社されたが、戦後、積極的に外国の出版界に身を投じ、タイムライフ東京支社販売部長、日本リーダーズダイジェ

スト社総務部長、販売部長を経て、1971 年 5 月情報産業の一翼を担うべく独立されたのである。

同社は、創立後 5 年目に入ったが、業務はまだ緒に付いたところで、現在、米国の電気、電子関係専門の新興出版社として、世界的に注目されている Artech House 社及び英国の名門 Institute of Marine Engineers の 2 社の日本総代理店として、両社の出版物の普及、浸透に全力をあげている。

海外ニュース

「ワイリー社の新部局」

John Wiley & Sons, Inc. はその大学向出版部門の中に、ビジネス関係書を集中的に扱う新しい部局を作った。この新部局は Melville と Hamilton Publishing Company と Wiley のニューヨークのカレッジ部門の経営、経済関係のテキストの出版活動を統合し、Wiley/Hamilton のインプリントで出版する。

Donald C. Ford が出版者となり、Melville と Hamilton から各 1 名、Wiley のカレッジ部門から 2 名の編集者が来て彼を助ける。George C. Thomsen がプロダクト・マネジャーに、Ronald Q. Lewton がマネージング・エディターに就任したが、いずれも Hamilton 出身である。

従来 Melville が出してきた専門書、参考書類は、Wiley-Interscience Division のインプリントで継続されることになった。

(Publishers Weekly, 6 月 2 日号より)

「プレーガー社の機構再編成」

Praeger Publishing の機構の再編成、スタッフの縮少、出版計画の手直しは、昨秋、親会社 Encyclopedia Britannica の副社長 Charles Van Doren が同社の社長に、同じく親会社の重役である Paul Armstrong が財務担当の副社長に就任して以来進められてきたが、このほど一通り完了した。

この結果、Praeger General Books, Praeger Special Studies, Praeger College Text の三つの相互に関係はあるが別個の部門が誕生し、一般書の部門は縮少され人員も削減された。これまでの編集長 Arnold Dolin をふくめ、約 30 人のスタッフが削減の対象になった模様。社全体の運営は、Encyclopedia Britannica の社長 Charles Swanson, EB の Educational Corporation の社長 Ross Sackett, 前述の Van Doren と Armstrong から成る取締役会によって行われ、日常業務は Armstrong が統轄することになった。

(Publishers Weekly, 5 月 26 日号より)

——紀伊國屋書店提供——

会員の横顔

幸洋商事

廣井秀夫

本石町の一角、ま新しいビルの中に幸洋商事のオフィスはある。窓からは経団連や日経、日銀と日本の経済活動の心臓や動脈のような建物が見えるところである。「ここは何



といっても出場が良くて—」という広井さんの言葉に、オヤ、と思う。しばらく耳から遠ざかっていた言葉にめぐりあった感じである。「出場」というのが江戸弁かどうか知らないが子供の頃何度か耳にした記憶があり、「交通の便が良くて」という現代語よりも、響きが良いと感じるのは筆者だけであろうか。

廣井さんは大正 2 年、東京は下谷の生れ。上野広小路の近くに、震災にあう直前まで住んでいられたという。福島高商を卒えて、日立製作所に入社、資材・総務・営業等の各部門に約 30 年、10 年程前からは、日立別館の食堂部長となり、そこで 7 ～ 8 年を過ごされた。「本屋に転業なさっての御感想は？」と伺うと、「何といっても人間関係のわずらわしさが無いのが有難いですよ」とのお話。多勢のウェイトレスやコックを使っている食堂運営や管理に較べれば、たしかに本屋の方が気楽かも知れない。それに、日立という大きなバックを持つ同社の安定した業務が、一層廣井さんを気楽にさせるのか、と一寸羨しくなる。

二年前、同社の前社長清水氏が辞められると、その後をひきついで現職につかれた訳だが、お住いの方は一昔も前から本郷の赤門アビタシオン、とのこと。住居の方が、現在のお仕事を先取りしていたような感じがするの面白い。

趣味は、歌舞伎に小唄と、やはり生粋の下町育ちを思はせる。「ごひいきの役者は？」という質問には「先代の吉右衛門など好きでしたね」との御返事。「ええ、役者はそりやもう、一生が修業でございまして」と良く声色屋が真似をした、あの熱のこもった口跡がふと耳によみがえってくる。廣井さんも、恐らくあの吉右衛門のように生真面目な方なのであらう、と思いながら、写真を撮らしていただいた。(自宅：文京区本郷 5-29-13、赤門アビタシオン)

ニュース

- ☆ 仏国 Editions du SeuilのM. Rivallan 6月中旬来日。
 ☆ United Nations Publishing ServiceのSales Section
 のChief. Mr. W. Scott Lang 6月下旬来日。

通関統計

外国貿易概況（大蔵省関税局編、日本関税協会発行）
 1975年3月号所載。

書籍、新聞、雑誌の輸入額。

昭和50年3月 \$11,140,000 1月以降累計 \$24,474,000

昭和49年3月 \$ 5,567,000 " \$15,730,000

（注）この統計は、C I F 価格で10万円以下の少額貨物は
 含まれない。

事務所移転ご案内

今般次の通知がありましたのでお手許の会員名簿の訂正
 をお願い致します。

白 鷗 洋 書 館

〒102 東京都千代田区麹町4～5 橋ビル5 F

☎ (03) 239～0666 代

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がございました。
 お手許の Agent List にご記入願います

（株）医学書院 ☎ 814-5931

Baillière Tindall, London

Barnard, R. O. et al.: An Atlas of Tumours
 Involving the Central Nervous System
 (Early '76) ¥15,000

Marcel Dekker, Inc., New York

Immunology Series

Vol. 3 Reif, A. et al.: Immunity and Cancer
 in Man (In Prep.) 4,620

Modern Pharmacology-Toxicology

Vol. 4 DeRobertis, E.: Synaptic Receptors;
 Isolation and Molecular Biology
 (In Prep.) 10,910

Excerpta Medica, Amsterdam

Monographs in Anaesthesiology

Vol. 3 Katz, R. L. et al.: Muscle Relaxants
 (In Prep.) 19,200

Grune & Stratton, Inc., New York

Stollerman, G. H.: Rheumatic Fever and
 Streptococcal Infection (July '75) 7,210
 North-Holland, Amsterdam

Advances in Neurology

Vol.12 Kreutzberg, G. W.: Physiology and
 Pathology of Dendrites (In Prep.) 14,560
 Plenum Publishing Corp., New York

Goresky, C. A. & M. M. Fisher: Jaundice
 (Hepatology Vol. 2) 10,910
 Springer Verlag, Berlin

Friede, R. L.: Developmental Neuropathology
 (Late '75) 17,000

Georg Thieme Verlag, Stuttgart

Loose, K. E. & R. J. A. M. van Dongen: Atlas
 of Angiography (Late '75) 34,000

Moll, H.: Paediatriche Krankheitsbilder
 (August '75) 23,800

Moll, H.: Atlas of Pediatric Diseases
 (Early '76) —

Urban & Schwarzenberg, Muenchen

Clemente, C. D.: Anatomy; A Regional Atlas
 of the Human Body (July '75) 9,600

Royal VanGorcum Ltd., Assen

Francois, J. et al.: Chromosomal Aberrations
 in Ophthalmology (November '75) 34,560

The Williams & Wilkins Company, Baltimore

Rebuck, J. W. et al.: The Reticuloendothelial
 System (International Academy of Pathology
 Monograph No. 16) 9,060

Rubin, M. I. & T. M. Barratt: Pediatric Nephrology
 (July '75) 18,500

Wolfe Publishing Ltd., London

Craigmyle, M. B. L.: A Colour Atlas of Histology
 (July '75) 11,870

Rooth, G.: Acid-Base and Electrolyte Balance
 (July '75) 3,080

（株）紀伊國屋書店 ☎ 354-0131

PUBLISH OR PERISH, INC. U. S. A.

all Books

ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社

☎ 262-5278

Phaidon Press (U. K.)

Elsevier・Phaidon (U. K.)

Orbis Books (U. K.)

Garland Publishing, Inc. (New York)

Kraus-Thomson Organization Ltd.

Writings on American History 1973-74 ¥6,300

1962-73 4 vols ¥94,500

昭和50年7月 通巻第99号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル302号室 ☎ 271-6901

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル ☎ 371-5329